



12月7日の地震に対する対応

昨年7月以来、久しぶりに東北地方の太平洋側でM7クラスの地震が、12月7日夕方起こり、つくば市内で震度4を記録しました。幸い、桜ニュータウンでは大した被害はありませんでした。

自主防災組織では、この地震発生後、安否確認メールの登録件数(93件)に対して、「緊急連絡：先ほど三陸沖で大きな地震がありました」などのメールを発信しました。このメールは、住民の安否や被害状況を確認するための「安否確認メール」とは異なり、情報伝達機能の確認を兼ねて発信したものです。一部のパソコンで、受信したメールに文字化けが発生する問題も確認されています。



現在、桜ニュータウンの自主防災組織が災害発生時に取扱うメールシステムは大別すると、①被害が発生したときに、災害対策本部から住民に対して発信する「安否確認メール」と②住民が助けを求めるとともに災害対策本部に発信する「緊急連絡用メール」の2種類がありますが、今後、今回のような「地震情報」を含めて、現象の規模に合わせてどのような内容の情報発信をするか、また、そのタイミングをどうするかなど、検討すべき課題も明らかになりました。

今後、自主防災組織では、今回の経験などを基に住民の方々に、より確実な情報を提供できるよう機能を強化するとともに、利用者の方には上記のメールシステムの解説や使い方を記した「利用の手引」を作成し、配布する予定にしています。

● 家庭での地震対策 (6) 地震発生！ まずはどうする？



地震が発生したら、まずは落ち着いて自分の身を守りましょう！

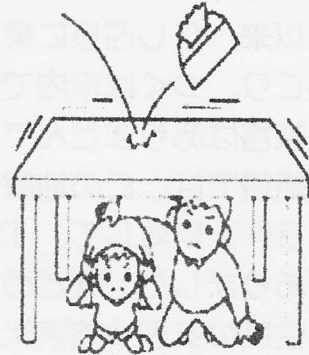
大事なポイント

- ・頭をかばって安全確保を！
- ・落ちてきそうなものからは急いで離れましょう！

大地震が発生したその瞬間に冷静に対応するのは難しいことです。しかし、その一瞬の判断が生死を分けることがあります。あわてず、落ち着いて行動するために、場面ごとの行動パターンを覚えておきましょう。

自宅では

- 机やベッドの下にもぐる。余裕がなければ手近の座布団などで頭を守る。
- 料理中のときは、可能ならすぐに火を消す（ガスコンロやストーブには耐震自動消火装置がついていることが多いので無理をしない）
- 強い揺れが収まった時点で、もし火災が発生していた場合は、消火器などで速やかに初期消火を行う。
- 動けるようになったら余震に備え、ドアを開けて逃げ道を確保する。古い木造住宅では、すみやかに外に出た方が安全な場合もあります。



ビルや商業施設内では

- 天井の落下に備え、急いで柱や壁際に身を寄せ、手荷物などで頭を守る。
- エレベーターの中に居た場合は、全ての階のボタンを押し、停止した階で周囲の状況を確認して降りる。

地下街では

- 大きな柱や壁に身を寄せ、強い揺れが収まるのを待つ（一般に地下は地上より安全といわれています）。
- 火災が発生した場合は、ハンカチなどで鼻と口を覆い、壁伝いに低い体勢を保ちながら地上へ避難する。

路上や住宅街では

- 手荷物などで頭を守りながら広場などへ逃げる。
- 倒壊の危険のあるブロック塀や石塀、門柱などから急いで離れる。

繁華街では

- ガラスや看板などの落下物、自動販売機の転倒に注意する。

車の運転中は

- ハンドルをしっかりと握って徐々にスピードを落とし、道路の左側に停車してエンジンを切る。揺れが収まるまでは車外に出ず、カーラジオなどで情報を確認する。
- 車を離れるときは（緊急車両の通行を妨げないよう）キーを付けたままにしてドアロックもしないこと。車検証は持って逃げる。